一　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

科学の研究の発端は、科学者個人の好奇心に基づいている。「なぜそうあるのか」を問い質そうとする心の働きである。アインシュタインは子どもの頃、磁石の動きを見てその不思ギ[A]さをずっと忘れないでいたという。①アインシュタインならずとも、見えない部分で何が起こり、どのような仕組みが働いているのかを知りたいと誰しもが思う。それは人間が獲得した未知のものへの探究心であり、何とかしてその謎を明らかにしたいという願望が研究に駆り立てるのである。

そこには想像力が重要な役割を果たしている。科学の発想は想像力に基づく「仮説」が出発点となるからだ。「仮説」は現象を統一的に説明できるよう設けた仮定のことであり、最初の段階では何らのコン[B]拠を持たない。その意味では、出発点において科学は芸術と何ら変わるところはない。想像力を駆使して新しい着想を得る点では全く同じであるからだ。このような発想が起こるに際して、実験による現象を見て、思考実験によって、旧理論の矛盾を見つけて、単純にこうあれば面白いと感じてなど、さまざまな契機がある。また、思いつき、勘、インスピレーション、ひらめき、セレンディピティー（偶然の発見）、というような何とも形容しがたい心的過程を経ており、その背景には見えない部分で起こっている事柄に対する意識せざる想像力が働いていると考えてよいだろう。

そのようないささか漠とした想像が土台となり、そこから論理を組み立てて筋道をつけ、実験や理論の構築へと進んでいく。その思考過程においては、常にある種のイメージを頭に生起させて試行錯誤を続けている。そのイメージと実際の計算や実験結果に齟齬(注)が生じた場合、想像していた仮説を変更するか、論理の筋道をたどり直すか、計算や実験を再構築するか、のフィードバックが入る。ここにおいて②科学者は真実に忠実である。例えば、仮説が間違っていると気づけば、それに固執するのではなく、素直に変更する。イメージ通りでなければ必ず違和感を持つから、潔く新しい仮説に乗り換えもする。この作業も芸術家に似て極めて感覚的なように見えるが、論理に従うとはそのような過程が自然に進むということでもあると言える。

つまり、知識の創出においては、［③］によって問題に気づき、［④］によって仮説を抱き、［⑤］性によって筋道を鍛え上げるというプロセスをとっており、その各々の能力が科学研究者の要件となるのだ。

ところで、研究者の純真な意識において科学はいかなる意味を持っているだろうか。その第一は、純粋な好奇心のみに基づいた探究の欲求である。自然の法則を明らかにしたいとの一念で謎に挑んでいるからだ。結果やその応用については何ら気にせず、［⑥］名声や褒賞への欲望もなく、ひたすら研究に集中する。「科学のための科学」に殉じているのだ。「文化としての科学」と言っていいかもしれない。科学は文化の一部門として、主として人々の精神的活動に寄与するためである。

その意味では純粋ではあるが、危うさもある。パンドラ(注)の箱と同様、⑦箱を開けることのみに夢中になって、そこからどのようなものが飛び出してくるかについて一切頓着しなくなるからだ。そして、自分が創り出したものがいかに醜悪で害悪を与えるばかりではあっても、それを研究する自由はあって誰も阻止できないと言い、その使い方は社会の選択だから自分には責任がないとうそぶく(注)ことになる。それは無責任だと言えるのではないだろうか。社会と切り離された科学はないからだ。科学者も社会の一員であり、その選択に関与しているのは確かで自分に責任はないと言えないのである。

また、応用から極めて遠い分野なら、そのような懸念は不必要だが、技術に近接している場合には、どのように科学が使われるかを⑧予想する心構えが求められる。「道具としての科学」という側面が避けられなくなる。原理を求める科学そのものが目的なのではなく、科学を道具に使うということに陥りやすくなるからだ。マンハッタン計画における原爆の開発は、そのような科学のテン[C]型的な利用であった。核分裂の連鎖という原理的な科学の法則はわかっていて、それをいかに効率的に爆弾として実現するか

に科学が動員されたからだ。

⑨現在は、「社会のための科学」が広く言われるようになった。科学の社会的効用（社会に役立つ）という意味もあるが、広く社会との関係を強く意識した科学研究であるべきという意見である。社会との接点や社会への還元を意識すること、社会からの信頼や付託に応えられること、社会的要請に応じることなど、現実社会との関係を抜きにした科学はないというわけだ。単なる「道具としての科学」ではなく、積極的に科学の社会的機能を考える上では重要な観点である。しかし、⑩ 社会や技術開発に役立つ科学に偏りがちになることを用心しなければならない。科学研究が国家の庇護（ひご）を受け、知的財産という側面が強調されるようになり、現実社会における科学の有用性のみが問われるような状タイ（D）になりつつあるからだ。ニュートリノの検出でノーベル賞を授与された小柴（こしば）氏に対して新聞記者が最初に発した質問は、「ニュートリノはどんな役に立つか？」であった（それに対し、小柴氏は言下に「何の役にも立たない」と応えたそうだ）。「社会のための科学」は社会的実利のことではなく、社会に息づく文化への寄与としての科学であるべきだと思う。つまり、文化のきらめきがあることこそが科学の不可欠な要件なのではないだろうか。

もっとも、「科学のための科学」であっても「社会のための科学」と本質的な違いはないとも言える。文化の創造も社会のためであり、科学は社会とは無縁に存在するものではないからだ。

（池内了（いけうちさとる）『科学・技術と現代社会』）

（注）齟齬――食い違い。
パンドラの箱――ギリシャ神話に出てくるあらゆる災いを封じ込めた箱で、これをパンドラが開けたため、人の世に災いが満ちた。
うそぶく――とぼけて知らないふりをする。

問一　二重傍線部A～Dの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群のア～エからそれぞれ一つずつ選んで、その符号を書きなさい。

A　ア　ギ巧をこらした工芸品。　イ　賛成多数でギ決する。
　　ウ　経済学の講ギを受ける。　エ　半信半ギで話を聞く。
B　ア　貧コン問題に取り組む。　イ　古コンの名作。
　　ウ　国際社会がコン迷する。　エ　悪をコン絶する。
C　ア　故事成語の出テンを探す。　イ　テン望が開ける。
　　ウ　テン衣無縫に生きた画家。　エ　警告灯がテン滅する。
D　ア　生徒手帳を携タイする。　イ　新しい技術をタイ得する。
　　ウ　猿の群れの生タイを観察する。　エ　安全な場所でタイ機する。

問二　傍線部①を言いかえた表現として適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　アインシュタインでないなら　イ　アインシュタインでないとウ　アインシュタインだとしても　エ　アインシュタインでなくても

問三　傍線部⑧の熟語の構成の説明として適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　上の漢字と下の漢字が似た意味を持っている。
イ　上の漢字と下の漢字が主語と述語の関係にある。
ウ　上の漢字が下の漢字を修飾している。
エ　下の漢字が上の漢字の目的や対象を示している。

問四　傍線部②は、どのようなことを言っているか。その説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　科学者は、実験の結果がイメージ通りでないときに、芸術家と同じように、感覚的に仮説を変更すること。
イ　科学者は、直感的な発想から筋道を立てて理論を組み立てる際に、実際の計算や実験の結果を尊重すること。
ウ　科学者は、試行錯誤を繰り返せば、いつかは計算や実験の結果が予想通りになるはずだと考えること。
エ　科学者は、現象を統一的に説明することを目指しており、既に発見された自然の法則は疑わないこと。

問五　空欄③～⑤に入る適切なことばを、文章の展開をふまえて、本文中から抜き出し漢字で書きなさい。ただし、③・④は三字、⑤は二字のことばとする。

問六　空欄⑥・⑩に入ることばの組み合わせとして適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　⑥もちろん　⑩よもや　　イ　⑥あるいは　⑩かえって

ウ　⑥しかも　⑩さぞかし　　エ　⑥ましてや　⑩ともすれば

問七　傍線部⑦はどのようなことをたとえているか。その説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　科学者が好奇心に基づいて研究の自由を主張するばかりで、社会からの期待や評価に関心を持たなくなること。

イ　科学者が研究に全てをささげる一方で、創出した知識の使い方についての責任がなおざりになっても気にしなくなること。

ウ　科学者が研究に対して純真であろうとするあまり、社会の一員として認められなくなっても平然としていること。

エ　科学者が人々の知識欲に応えることに気を奪われて、自然の法則を解明するという科学本来の目的を見失いがちになること。

問八　傍線部⑨について、筆者はどのように考えているか。次のことばに続く空欄に入る内容として最も適切なものを、あとのア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

「社会のための科学」が広く言われるようになったことを、［　　］

ア　科学が技術と近接している場合には原爆開発のようなことが起こり得るという教訓の共有として尊重しつつも、技術から遠い分野のことは見逃してしまっていると警告している。

イ　原爆開発につながる原理を発見した科学者の責任を追及する世論として許容しつつも、何の害もないものだけを求めることが科学者の自由を奪っていると反発を感じている。

ウ　科学を道具に使うことが原爆開発につながったことに対する反省からの帰結として認めつつも、社会における科学の有用性だけに関心が集まる風潮に警鐘を鳴らしている。

エ　科学が原理の追究に偏りすぎたことで原爆開発の道具になってしまったことへの批判と受け止めつつも、科学を道具に使う傾向は改まっていないことを嘆かわしく思っている。

問九　次のア～エは、本文から読み取ったことについて四人の生徒が発表したものである。発表内容が本文の内容に合っているものを、ア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　私は、科学が文化の一部門であるというのが筆者の言いたいことだと思います。それは、科学によって自然の法則が明らかになることで、人々の考え方や価値観に変化がもたらされるということです。

イ　私は、文化の発展に尽くしている科学者の功績をもっとたたえるべきだと思います。なぜなら、科学者が名誉を求めず生涯をかけて研究に打ち込んでいることを、筆者が高く評価しているからです。

ウ　私は、科学者は本来の純粋な研究に専念するべきだと思います。なぜなら、筆者は人々に害を与えるものを生み出した科学の歴史に触れながら、科学が社会と関わることを否定しているからです。

エ　私は、小柴さんのエピソードに筆者のメッセージが込められていると思います。それは、科学が何の役にも立たなくても、文化の発展に尽くす科学者の姿が人々の共感を得てきたということです。

二　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

引っ込み思案であった小学五年生のぼく（枝田光輝）は、クラスメイトの押野の影響で、クラスの飼育委員に立候補しグッピーを飼うことを提案するまでになった。そんなある日、母親から仕事の関係で転校することになると聞かされた。ぼくは思い切って母親に自分の思いを伝えた。

「うんうん、それで？　うんうん」と調子よくぼくの話を聞くけど、実際は頭に入ってないみたいに適当な感じがした。母さんの頭の中は、新しい仕事のことでいっぱいみたいだった。

「光輝の言いたいことはよくわかったわ」

母さんはぼくの目を見て、真剣にそう言ってくれた。だからぼくは期待した。口の中に残ったクッキーのかけらを牛乳で押し流してから、ぼくは言った。

「うん。だから、転校だけはしたくないんだ。遠くからでもぼく、通えるから」

母さんは軽くうなずいて、なにかを考えるような顔をしたあと、「でもね」と声に出した。ぼくはものすごく緊張してしまった。数秒の間にいろんないやな予感がうずまいた。

「でもね、光輝。それはやっぱり無理だわ。小学校っていうのは、学区があるから一時間以上も通学にかかるところから通うのは無理なのよ」

学区？　無理？　ううん、椎野先生に相談すれば大丈夫だよ。呆けた顔でぐるぐると考えていたぼくに、母さんは続けた。

「仕事も忙しくなると思うし、なるべく心配事は増やしたくないのよ」

①ズキンときた。心配事っていうのはぼくのことだろうか。

「ごめんね、光輝。本当に光輝には悪いと思ってる。野球もはじめたばかりでたのしいのも、よくわかるわ。だけど、もうどうしようもないことなの。母さん、がんばるから、光輝にも協力してほしいの。ごめんね、光輝」

母さんは今にも泣き出しそうに見えた。本当はそうじゃないかもしれないけど、ぼくにはそう見えてしまった。だから、ぼくはもうなんにも言えなかった。

「よろしくね。頼りにしてるわ、光輝」

ぼくはごくんと音をたてて牛乳を飲んだ。

引っ越しと転校の話は、椎野先生の耳にも入った。ぼくがここにいられるのは、夏休みがはじまるまでということだった。あと少ししかないから、思いきり後悔しないようにたのしもう、という考えには、どうしても至らなかった。逆に、あと少ししかないから、もういいんだ、と思ってしまった。

少し前のぼくに戻ったと思えばいいんだ。えだいちというあだ名や草野球や飼育委員なんて、全部うそだったんだ。ぼくはしょせん、だれからも気付かれない幽霊みたいな子どもで、それが本来の自分だったんだから、また元に戻るだけなんだと考えるようにした。

ぼくは三丁目の空き地に行かなくなった。これからはもう二度と行けなくなるんだから、早いうちに慣れておこうと思った。②ぼくは、子どもらしい純粋さと単純さで、自分が少しでも傷つかないほうを選んでいた。

「えだいち、どうしたんだよ。元気ねえなあ」

押野は陽気に接してくれたけど、ぼくは頑なだった。押野とのたのしい思い出を、もうこれ以上ひとつも増やしたくなかった。押野のお姉さんが、新しいデザートを作ってぼくを誘ってくれたけど、ぼくは首を振った。

この短かったたのしいときを、早く忘れてしまいたかった。グッピーは子どもを産んだけど、あとのことは亀山さんと二人組に任せた。親とべつにするのが遅くなって、赤ちゃんのうちの何匹かは、親に食べられてしまった。飼育委員はもちろんだったけど、クラスメイトみんなが悔しがって悲しんだ。でもぼくは、親に食べられてしまった赤ちゃんグッピーのことをいい気味だと思ったし、理由はわからないけど、うらやましくも感じた。そして、ぼくは最低な人間なんだな、と自分のことをどこか冷ややかに眺めていた。

押野以外の友達は、ぼくを避けるようになった。あたりまえだ。ぼくが口をきかないからだ。ぼくはやっと覚えたクラスメイトの顔と名前を記憶から全部消したかった。押野は、辛抱強くぼくに話しかけてくれた。毎日のように三丁目に誘ってくれた。ぼくは唇をかんで、首を横に振り続けた。バットとひび割れたグローブは、押し入れの奥にしまった。

「枝田くん。ちょっといいかしら」

ある日、椎野先生に呼ばれた。③教室から職員室までのリノリウムの廊下は、おそろしく無機質で、ひどく冷たかった。

「お母さんから聞いたわ」……Ⅰ

椎野先生の言葉は、まったくぼくとは関係なかった。ぼくは椎野先生の「えがお顔」をじっと見た。④仕方がないことを、大人は容赦なく聞いてくるのだ。

「枝田くんが五年生になって、とても男の子らしくなって、立派になったのを、先生は大変うれしく誇らしく思っています」……Ⅱ

ぼくは椎野先生の顔を見つめるばかりだった。先生もぼくの顔をじっと見つめていた。

「転校するのがいやなのね」……Ⅲ

ぼくは先生の顔をにらんだ。椎野先生の顔から「えがお顔」が消えた。

「自分の思っていることを、きちんと口に出して伝えなさい」……Ⅳ

先生は、ぼくの目をまっすぐに見ていた。ぼくは怒りたいのか、泣きたいのか、叫びたいのかわからなかったけど、言葉を口に出す前に勝手に涙がこぼれ落ちた。ぼくはあわてて目をこすった。でも、涙は次から次へと流れてきて、ぜんぜん追いつけなかった。声を出そうとしても、ぼくののどからは、ひっくひっくという音しか出なかった。

「転校するのがいやなのね？」……Ⅴ

ぼくはしゃくりあげながら、小さくうなずいた。それから先生は、あっという間にぼくを引き寄せて、ぎゅうっと抱きしめた。思いがけず力強くて、ぼくはびっくりして、そして⑤安心して、それから、もっともっと涙がこぼれた。

（椰月美智子『しずかな日々』）

問一　二重傍線部ア・イの漢字の読み方を平仮名で書きなさい。

問二　二重傍線部A～Cの本文中の意味として最も適切なものを、次の各群のア～エからそれぞれ一つずつ選んで、その符号を書きなさい。

A　ア　いい気になって　　イ　抜け目なく
　　ウ　よく分かったふうに　　エ　気持ちを込めて

B　ア　けっきょく　　イ　はじめから
　　ウ　きっと　　エ　いっそのこと

C　ア　声を殺して涙をこらえながら
　　イ　息を詰めて体を硬くしながら
　　ウ　息が乱れて肩を震わせながら
　　エ　大声をあげて激しく泣きながら

問三　本文を場面展開の上で三つに分けるとすれば、二つ目の場面はどこまでか。終わりの七字を答えなさい。ただし、句読点やかぎ括弧（「　」）も一字に数える。

問四　傍線部①の「ぼく」の心情の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　転校するのは嫌だと自分が言いつのることが、母親にとっては負担になっていると受け止め、ひどく動揺している。

イ　引っ越しをして遠くなっても今の学校に通いたいと訴えたのに、母親から筋道立てて無理だと説得され、しょげかえっている。

ウ　言いたいことはわかったと真剣に答えてくれた母親が、あっさりと自分の期待を裏切ったと思い、不満を覚えている。

エ　母親が仕事のことを口にしながらも、自分のことを心配してくれていたのだと気づき、わがままを言ったことを後悔している。

問五　傍線部②について、「ぼく」が「自分が少しでも傷つかないほうを選んでいた」ことは、「ぼく」の態度のどのようなところに現れているか。その説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　友達に避けられるようになって元気をなくしている自分のことを気にかけてくれる押野を心配させまいと、押野の誘いをわざとはねつけ、強がってみせているところ。

イ　押野が気遣ってくれていることはわかっているが、その厚意を受け入れてしまうといっそうつらい思いをすることになると考え、拒絶しているところ。

ウ　押野がいつもと変わらず野球に誘ってくれるのはありがたいが、転校してしまうとかえって押野に寂しい思いをさせると気を回して応じようとしないところ。

エ　元気をなくしている理由を聞きたがる押野の陽気さがしゃくにさわり、人の気持ちを察することができない押野の質問に意地でも答えようとしないところ。

問六　傍線部③の表現についての説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　押野が、元気がない「ぼく」のことを心配して先生に相談したのではないかという「ぼく」の疑念を誇張している。

イ　「ぼく」が転校することは先生の耳にも入っているはずなのに、知らないふりをして呼び出す先生への不信感を強調している。

ウ　職員室へ向かう廊下ですれ違うときに、「ぼく」に対して冷たい視線を向ける友達の様子を客観的に描写している。

エ　友達との関係やクラスでの振る舞いについて先生から問いただされることを想像した「ぼく」の沈んだ気持ちを暗示している。

問七　傍線部④について、「ぼく」が転校は「仕方がないこと」とあきらめたことが象徴的に表現されている一文を本文中から抜き出し、最初の五字を書きなさい。ただし、句読点やかぎ括弧も一字に数える。

問八　本文中の Ⅰ ～ Ⅴ の会話文を、先生の気持ちを想像して朗読するとき、どのように読むのがよいか。次のA～Eの読み方を、Ⅰ ～ Ⅴ の順に並べたものとして最も適切なものを、あとのア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

A　厳しい口調で迫るように　　B　優しい口調で共感を込めて
C　穏やかな口調でさりげなく　　D　静かな口調で諭すように
E　きっぱりとした口調で確かめるように

ア　Ⅰ B　Ⅱ D　Ⅲ A　Ⅳ E　Ⅴ C
イ　Ⅰ C　Ⅱ D　Ⅲ E　Ⅳ A　Ⅴ B
ウ　Ⅰ B　Ⅱ E　Ⅲ C　Ⅳ A　Ⅴ D
エ　Ⅰ C　Ⅱ E　Ⅲ A　Ⅳ B　Ⅴ D

問九　傍線部⑤における、「ぼく」の様子の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　転校したくないという思いを椎野先生に打ち明けたことで胸のつかえがおり、本来の自分に戻ればよいと思い、ありのままの自分をさらけ出している。

イ　転校しなくてよいように椎野先生が母に取りなしてくれるのではないかという期待から、やっぱり椎野先生は頼りになると思い、先生に全てをゆだねて甘えている。

ウ　転校を理由にグッピーの世話をせず死なせてしまった自分を最低な人間だと責めていたが、椎野先生が許してくれたことで、申し訳ない気持ちでいっぱいになっている。

エ　転校は仕方がないことと思い定めて、自分の気持ちを偽り続けてきたが、自分のことを理解してくれる椎野先生の前で抑え込んできた感情が込み上げている。

三　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある大名家の中間（召使い）が、古道具屋で買った仏像を返すように命じられ、仕方なく返しに行くが、古道具屋は受け取りを断る。

かの中間聞きて、「価（仏像の代金）を戻し候ふやうにと申すならば、その断りもつともなり。①価におよばず返し候ふ間（ので）、請け取り申すべし」と言ひしゆゑ、（どうしてそのようにおっしゃるのですか）「何ゆゑにさのたまふ」と尋ねければ、かの中間、時の拍子にやよりけん、（もののはずみだったのだろうか）「この仏を調へ帰りて礼拝尊敬するに、とかく元の所へ返し候ふやう夢幻となく言ひ給ふのうるさきに返すなり」と語りければ、「さあらば（それならば）②置き給へ」とて請け取りしが、「さては作仏（名高い仏像）にてもあるべし。③俗家に置きて恐れあり」とて、近所の菩提所へ納めて始終を④語りけるに、寺僧も奇異のおもひをなし、⑤一犬吠ゆればのたとひたがふことなく、近隣これのみの沙汰となりて、しばしは右仏像（この）への参詣、群集をなしけるとや。

（評判）

（根岸鎮衛『耳嚢』）

問一　二重傍線部を現代仮名遣いに改めて、全て平仮名で書きなさい。

問二　傍線部①の本文中の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　代金は別にして　　イ　代金ほどの値打ちがなく

ウ　代金を戻すまでもなく　　エ　代金のことにふれず

問三　傍線部②と④の主語の組み合わせとして適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　②　中間　④　中間　　イ　②　仏　④　中間

ウ　②　仏　④　古道具屋　　エ　②　中間　④　古道具屋

問四　傍線部③のように考えた理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　仏像がたびたび夢の中に出てきて、元あった場所に返すよう訴えてくるという中間のことばを信じたから。

イ　どこにでもあるがらくた同然の仏像だと思っていたが、中間がいわれのある尊い仏像だと言ったから。

ウ　仏像が昼夜を問わず元あった場所に帰りたいと言ってうるさいという中間のことばを気味悪く思ったから。

エ　仏像をこのまま置きっ放しにしていると、自分の身に災難がふりかかるかもしれないと考えたから。

問五　傍線部⑤は「一犬形に吠ゆれば百犬声に吠ゆ」（一匹の犬が物影におびえてほえると、他の多くの犬がそれにつられてみんなほえ出す）ということわざの一部である。(a)「一犬形に吠ゆ」と(b)「百犬声に吠ゆ」はそれぞれ何をたとえているか。最も適切なものを、次のア～カからそれぞれ一つずつ選んで、その符号を書きなさい。

ア　寺僧が、この仏像のうわさを疑わしく思ったこと。

イ　近隣の人々が、この仏像を拝みに続々と参詣したこと。

ウ　中間が、夢の中でこの仏像を見たこと。

エ　中間が、近所の菩提所にこの仏像を納めたこと。

オ　中間が、根も葉もない出まかせを言ったこと。

カ　古道具屋が、近隣の人々を欺こうとしたこと。

四　次の漢文と解説文を読んで、あとの問いに答えなさい。

人魏武に一盃の酪を餉る。魏武噉らふこと少許にして、蓋頭上に合の字を題し、以て衆に示す。衆能く解するもの莫し。次いで楊脩に至る。脩便ち噉らひて曰はく、「公は人をして一口を噉らはしめんとするなり。復た何ぞ疑はん。」と。

A人餉B魏武一盃ノ酪ヲ。魏武噉ラフコト少許、蓋頭上ニ題シ合ノ字ヲ、①以テ示ス衆ニ。衆莫シ能ク解。②スルモノ次イデル至ニ楊脩ニ。脩便チ噉ラヒテ曰ハク、「③公ハ教シメントスル人ヲシテ噉ラハ一口ヲ也。復タ何ソ疑ハン。」

（劉義慶『世説新語』）

（解説文）ある人が魏の武帝に酒壺一杯の酪（ヨーグルト）を贈った。武帝は少し食べると、蓋の上に「合」という字を書いて、一座の者に見せた。誰も何のことかわからなかった。酪は順番に送られ楊脩のもとに回ってきた。脩はすぐにそれを食べて、「一人一口ずつ食べろということだ。何もためらうことはない。」と言った。

問一　書き下し文の読み方になるように、傍線部①に返り点をつけなさい。

問二　傍線部②が表す意味と同じ意味の「解」を含む熟語として適切なものを、次の**ア**～**エ**から一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　和解　　**イ**　解散　　**ウ**　了解　　**エ**　弁解

問三　傍線部③に該当する人物を、二重傍線部**A**～**D**から一つ選んで、その符号を書きなさい。

問四　波線部の行為について説明した文として最も適切なものを、次の**ア**～**エ**から一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　武帝が文字に込めた謎かけを見事に見抜いた行為。

イ　武帝の前でとりすましている人々の鼻を明かした行為。

ウ　武帝が一座の者に与えた酪を無断で食べた行為。

エ　武帝の権威を借りて人々に酪を食べるよう仕向けた行為。

五　次の各問いに答えなさい。

問一　次の文は、接客の場面で店員が話したことばである。表現が適切なものを次の**ア**～**エ**から一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　「恐れ入りますが、お客様のお名前をちょうだいできますか。」

イ　「お好みのソースをかけて、いただいてください。」

ウ　「承りました。以上でよろしかったでしょうか。」

エ　「いらっしゃいませ。ご注文は何になさいますか。」

問二　次の傍線部の慣用句のうち、使い方が適切なものを、**ア**～**エ**から一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア　彼女は気がおけない友人なので、二人でいるのは苦手だ。

イ　失言に気を付けないと、彼の二の舞を演じることになるよ。

ウ　水泳大会の直前に急に練習を始めても立て板に水で効果はない。

エ　先生が受賞されたことを他山の石として、私も研究に励みます。

問三　次の傍線部が慣用句となるように、（　　）内に体の一部を示すことばを漢字一字で書き、文を完成させなさい。

(1)　彼女の華麗なピアノの演奏に、クラス全員が（　　）を巻いた。

(2)　本校の卒業生からノーベル賞受賞者が出て、私は（　　）が高い。

(3)　練習後も黙々と素振りを続ける彼の姿には、（　　）が下がる。